

## 青年委員会 政治意識向上の取り組み—議会傍聴で、行政チェック役の重要性認識



9月17日、青年委員会は、県庁の議会庁舎で連合群馬議員懇談会の県議会議員と意見交換を行いました。

今回の取り組みは、青年委員会として次期の参議院選挙に向けて、特に投票率が低い若者が政治活動への理解を深め、積極的な活動に繋げるためのキッカケ作りとして実施しました。

当日は、事前学習として、政策担当副事務局長より連合の重点政策や連合群馬の政策・制度要求と提言について説明を受けた後、県議会の傍聴ならびに県議会議員との意見交換を行いました。

若年層の投票率が上がらない要因として「若い人は、自分が投票したことで何がかわるのか分からない。だから投票に行こうと思わない」「政治や選挙に興味を持ってないから参加しない」など、若者が政治に参加しない理由が上げられるが、政権交代があった2009年の衆議院選挙では、投票率が大きく上昇したことなどから「何かが変わると期待し、関心を持つことで投票に行くようになる」ことを確認しました。

青年委員会として「選挙に行くことが当たり前と思えるような雰囲気をつくる」ことや「政治を身近に感じられるように、普段から生活のどこに政治が影響しているか組合員に説明していくことで関心や興味を

持ってもらおう」ことの大切さを改めて理解しました。また、若者が投票を行いやすいように、ネットでの投票や選挙区内のどの投票所でも投票できる制度、期日前投票所の拡充を議員に要望しました。

県議会の傍聴では、「県政運営について、高齢化・人口減少を踏まえたインフラの整備や交通弱者に対応した公共交通の整備」など、連合の政策・制度要求と提言と一致する項目も含まれており、私たちの要求が県政に反映されるためのプロセスを実際に見ることができました。

後藤県議の一般質問「持続可能な県政運営と高崎競馬場跡地のコンベンション施設整備計画について」では、コンベンション施設の建設については、「建設コストが上昇し続ける時期になぜ建設するのか」と質問し、「県庁舎を除くと県内最大の建物を作ろうとしている。県民の声を広く集め、よく考えて進めて欲しい」と要望しました。

知事からは、修正した新しい計画に対して広く県民に説明し声を聞くとの回答は得られず、新計画に従って建設していくと回答、その後、県議会議員との意見交換の際に、今回の質疑で何がかわるかを後藤県議に投げかけたところ「何もしなければ今頃は大雑把な計画で着工していた。質問を続けたことで、不十分だが現実的な計画に修正された」とこれまでの取り組みの成果を知ることができました。

私たちの代表の活動で「不十分な計画が整備される」といった行政のチェック役としての議員の仕事内容があることを知り、代表を政治の場へ送ることの大切さを改めて感じました。

## 衆議院議員 宮崎タケシのマジメひとすじ No.5

245日間という戦後最長の通常国会が終わりました。憲法違反の疑いがある安全保障法制の審議で、政府・与党が国民多数の反対を押し切って強行採決したことから、騒然とした空気の中での国会閉幕となりました。

衆議院では7月に強行採決が行われ、私自身も委員長席に詰め寄って猛抗議。体を張って採決阻止に全力を尽くしましたが、数で勝る与党に力で押し切られてしまいました。

9月の参議院における採決でも、法案成立を焦る政府・与党は、なんと地方公聴会と同日の夜に強行採決しようとする、国会の慣例を無視する暴挙に出ました。

そこで私たち野党議員は、委員長に抗議するため参議院の理事室前に詰めかけ廊下を埋め尽くしました。スクラムを組んで突進してくる屈強な与党議員の猛攻に耐え、抗議を続けました。

本来、後方にいる予定だった女性議員の方々が率先して先頭に立ってしまったのは誤算でしたが、その勢いに委員長が気圧され、その日の委員会開催は阻止されまし

た。以降三日三晩にわたりほぼ徹夜で抵抗を続けましたが、ついに19日、土曜日の午前2時過ぎという異例の時間に、安保関連法の成立を許してしまいました。

安保法制をめぐる70年安保以降で最大規模のデモが国会を取り巻きました。国民世論からこれほどの後押しを受けながら、期待に応えられなかったのは本当に残念です。しかし、デモにはこれまで政治に無関心だった若者や主婦が多く参加し、民主主義の新たな息吹を感じたのも事実です。

とはいえ、法案審議の主戦場は国会であり、国会では「議席こそ力」です。まず野党勢力を結集し、来年の参院選で勝利し、自民党と互角に戦い議席を確保することこそが何より大切だと痛感しています。

